

クリスチャン

シリーズ～続 福音のカ～

2021/7/25

これまでのいきさつ

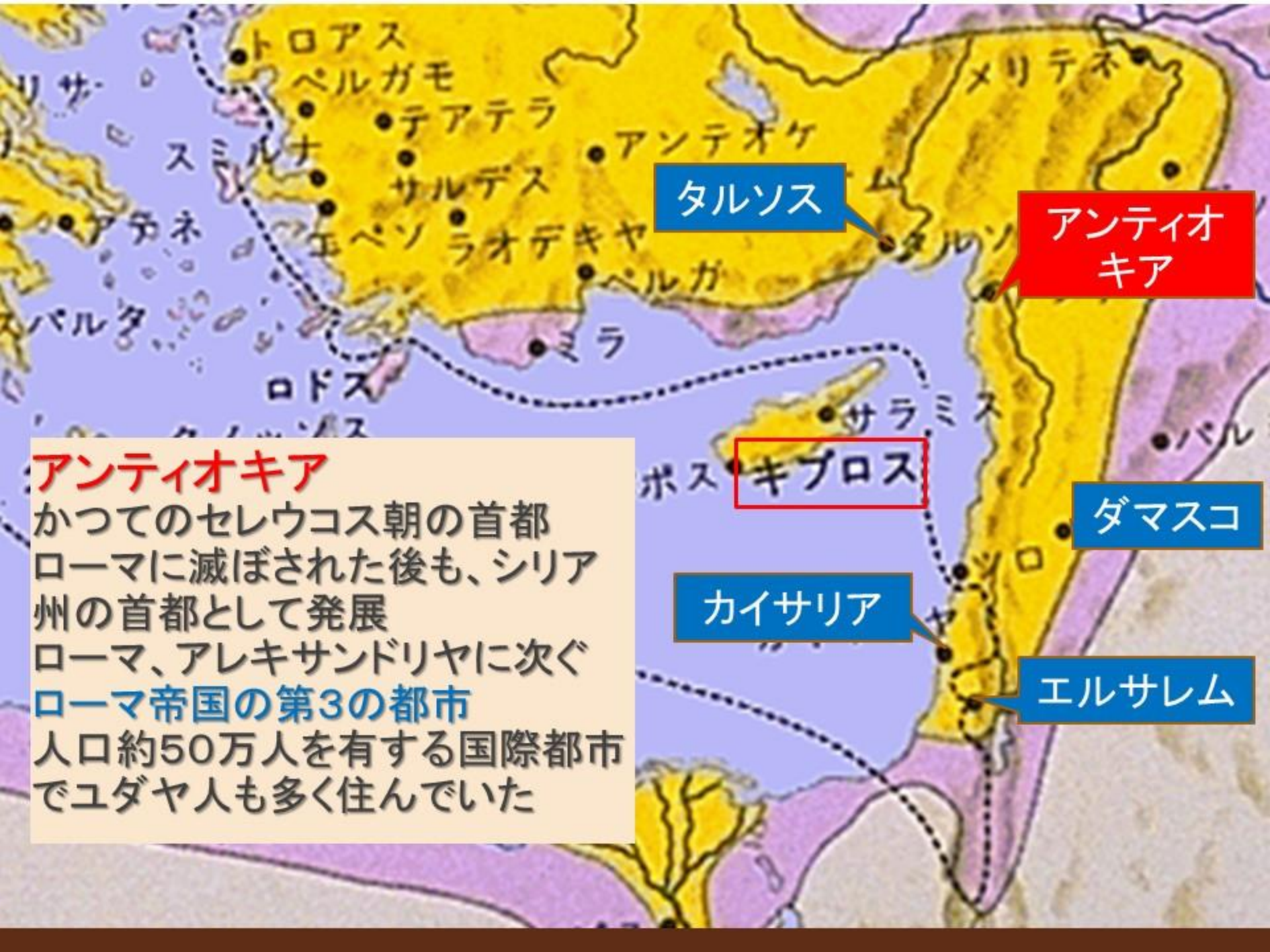
- エルサレム教会に対する迫害(8章)
 - エルサレムを離れた弟子たちによる宣教拡大
- 迫害者サウロの改心(9章)
 - 弟子たちを捕まえるために赴いたダマスコで、イエス様に出会い、宣教者となる
- 異邦人も正式に教会に加えられる(10章)
 - ローマの百人体長コルネリウス家にペトロが遣わされ、福音を語ったところ、ペンテコステの日と同じ出来事が起こった
 - ペトロがエルサレム教会でこの出来事を報告する(11:1~18)

使徒言行録11章19～30節

ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった。しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。

バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると“霊”によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。



タルソス

アンティオキア

アンティオキア

かつてのセレウコス朝の首都
ローマに滅ぼされた後も、シリア州の首都として発展
ローマ、アレキサンドリヤに次ぐ
ローマ帝国の第3の都市
人口約50万人を有する国際都市
でユダヤ人も多く住んでいた

キプロス

ダマスコ

カイサリア

エルサレム

アンティオキアの弟子たち

- アンティオキアにも来た弟子たち
 - エルサレムから直線距離で500km
 - 「ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった」
- 異邦人にも福音を語る
 - 外国の出身であった弟子たちは抵抗なく語った
 - 「ギリシア語を話す人々(異邦人)にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。」
- 派遣された**バルナバ**
 - この噂がエルサレム教会にも伝わったので、バルナバを派遣した
 - バルナバは「固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。」

サウロとバルナバ

- 「慰めの子」と呼ばれていたバルナバ
 - キプロス島出身のレビ人で、使徒たちにバルナバ(慰めの子)と呼ばれていた
 - 持っていた畑を売り、その代金を献げた
- サウロをエルサレム教会に紹介した
 - エルサレム教会はサウロを恐れた
 - 「サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間に加わろうと努めたが、みんなの者は彼を弟子だとは信じないで、恐れていた。」9:26
 - バルナバがサウロを紹介し仲間に入れた
 - 「ところが、バルナバは彼の世話を**して使徒たちのところへ連れて行き**、途中で主が彼に現れて語りかけたことや、彼がダマスコでイエスの名を大胆に宣べ伝えた次第を、彼らに説明して聞かせた。」9:27
 - サウロの宣教が激しすぎて命を狙われたので、教会は彼をタルソス(サウロのふるさと)へ送った

バルナバ、サウロを連れ戻す

- サウロを捜しに行ったバルナバ
 - 「それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。」
 - バルナバはサウロのことを心配していたのでは？
 - アンティオキアからタルソスまでは約200km
- バルナバ、サウロと共に教える
 - 「二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。」
 - 教えの確認
 - サウロのリハビリ➤**再生**！

「キリスト者」と呼ばれた人々

➤ 名誉なあだ名

- 「このアンティオキアで、弟子たちが初めて**キリスト者**と呼ばれるようになったのである」
- 原語では“**クリスティアノス**”
- 彼らがイエス・キリストの事ばかり話していたので、「**キリスト野郎**」とか「**キリスト馬鹿**」というようなニュアンスでつけられた**あだ名**

➤ エルサレム教会を助ける

- 預言通り大飢饉が起こる
- 「弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた」

- 意外な形で伝わり、広まった福音
 - 迫害によって散らされる
 - 直接的介入によって(エチオピア人の宦官・サウロ)
 - 不思議な方法によって(コルネリウスの家)
 - 自然の成り行き?によって(アンティオキア)
- 一人のための一人
 - バルナバがいなければサウロが用いられることはなかった
 - あなたも誰かの「慰めの子」となろう
- 目指せ「でもクリ」!
 - 日本には間違ったクリスチャンイメージが定着した
 - 「あなたそれでもクリスチャンなの?」と言われたい
 - 聖霊は意外な方法で働かれる